

近美・友の会 30周年記念行事
『アートフル・サフラン』座学&ガイドツアー
10月22日(日) 13:30 ~ 15:00

摂田屋、そしてサフラン酒は長岡観光の拠点として、市内、県内外から大勢の観光客を集めていますが、実は「アートの宝庫」でもあります。今回は、機那サフラン酒本舗の施設内を中心に、通常のガイドでは紹介しきれない多くの魅力をじっくりとご案内します。



- (1) 機那サフラン酒本舗は、テーマパーク
- (2) 饅絵のアート、美と創業者の想い
饅絵の超絶技巧、顔料の話、そして東洋思想など
- (3) 建築、調度・設えのアート
大看板、調度品、座敷・書院造りの設えなど

集合場所:「摂田屋6番街 発酵ミュージアム・米蔵」前
長岡市摂田屋4丁目6番33号(宮内駅から徒歩 10 分)
40分ほどの座学の後、40分のサフラン酒施設内ガイド付きツアー
(現地集合/現地解散)

申込方法:①お名前、②会員番号、③電話番号、④メールアドレスを記載の上、メール(tomo@kenbitomo.org)、電話(0258-28-4419)またはFAX(0258-28-4115)でお申込みください。

申込締切:2023年9月20日(火) 定員(25名)になり次第締切

問合せ先:新潟県立美術館友の会、上記メール、電話、FAX

参加費: 300 円 (設備保存協力金として)

1. 摂田屋地区とは

長岡市の南部に位置する摂田屋地区は、江戸時代、蔵王神社別当寺の安禅寺領、譜代大名牧野氏の長岡藩領がモザイク状に混在する地区で、河川・街道の物流インフラの利便も相まって、江戸後期より味噌・醤油・酒などの醸造業が発展し「醸造のまち」と呼ばれるほどになりました。この地区は太平洋戦争での長岡空襲の被害が比較的少なく、明治・大正時代の建物が今なお多く残っており、現在も発酵・醸造の文化や歴史を散策で感じられる場所です。

2. そして機那サフラン酒本舗とは

摂田屋の観光エリア西端に位置する機那サフラン酒本舗の一角は、明治の中頃から昭和の中期まで約70年間、この地で薬用酒の製造販売で栄えた、豪商の跡地です。店舗・工場などの十棟の建物、それらを囲む石垣が全て登録有形文化財に指定されています。これらを2017(平成29)年に長岡市が取得し、保存整備方針のもと、米蔵を改装した「摂田屋6番街 発酵ミュージアム・米蔵」が2020(令和2)年10月に先行オープンしました。今後約10年を掛け、残りの九棟の建物や庭園を順次整備していく計画になっております。

『サフラン酒』のシンボルである鍔絵蔵の鍔絵をはじめ、衣装蔵、そして迎賓館施設である庭園、離れ座敷も、文化的にも見どころ満載ですが、アートの観点から見直すと、美しさと思議さとのテーマパークのように、これまた楽しい話題に満ち満ちています。ぜひ、友の会の皆さんにも、お楽しみいただきたいと思ひます。

3. 主なアート・トピックス

①鍔絵 の3話	鍔だけで生き生きした表現、美しい色彩 四神・四霊、十二支の意図は 何故、このようなものを作ったか
②色3話	サフラン酒 鍔絵、ラピスラズリの成分と蛍光、麒麟は? サフラン酒 庭園のヒスイの緑色の由来は サフランの色ものがたり サフランイエロー他
③書3話	サフラン酒の離れ一階 新井石禅の書 サフラン酒の離れ一階 鈴木荘六の書 サフラン酒の離れ二階 藤田東湖の書
④彫刻 の3話	大看板の金子九郎次は袋町生まれ。明治期、柏崎は、日本有数の宮大工集団。 サフラン酒の離れ 吉澤家旧調度品 小川悠山の紫檀の座卓 サフラン酒の離れ二階 廊下の手摺り部分の宝珠の彫刻
⑤建築 の3話	土蔵の防湿構造 鍔絵蔵西の全面一層海鼠壁、星野本店の三階蔵 土間から土蔵への入口に冠木門 鍔絵蔵、星野本店の三階蔵 サフラン酒の離れ 随所のチンググリは、本格的な書院造りの典型